

令和6年度 第58回 中学生の「税についての作文」

『誰もが皆、ヒーロー』

町田市立南大谷中学校 3学年 牧 花香

日本の歴史においていつも農民は年貢に苦しんでいた。そのため私にとって税とは人々の負担になるものでしかないという認識があり、あまり快く思えない存在であった。また私自身も消費税のために商品の値段が上がり、欲しかった物が買えなかったり、父が「給料の半分近くを所得税や住民税で引かれるよ。」と嘆いていたことを見てきたから「なんで税金があるのだろう。なければもっと安く様々な物が買えるし、もっとお金が手に入るのに。」などと思っていた。そんな私の考えを一変させたのはある日の保健の授業だった。人命救助について習っていたときに、先生が突然「救急車を利用するのにかかるお金はいくらだと思う。」と尋ねた。私はとっさに「きつと高いお金が必要なんだろうな。」と考えたが、答えは「0円。」つまり無料で救急車は動いているのだ。先生は「救急車は税金によって無償で助けに来てくれる。みんなの税金は人を助けることに役立つているんだ。」と言った。それを聞いたとき私は驚いたと同時に嬉しかった。あれほどなければ良いと思っていたものは人を助けることに役立つていたのだと知ることができたからだ。その後、気になって他国でも救急車は無料なのかを調べてみたところ、全国で救急車の利用が無料なのは日本と香港だけなのだという。その香港ですら外国人旅行者などは有料らしい。つまり人種や国籍を

とわず全ての人を無料で救急車に乗せる国は日本のみだということになる。

幼いころ誰もが一度はヒーローを夢見たことがあると思う。だがヒーローのように人命救助をすることは自分にはできないと思っていた。しかし私達も税金を払うという形で誰かの命を助けているのだ。例えばそれが直接的なものではなくても、私はヒーローになれたかのようにかっこよく思えた。私達の払う税金は、間接的に誰かの尊い人生を守っていたのだ。いや、そればかりではない。私がふと教科書の裏面を見るとそこには小さく「この教科書は、これから日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されます。」と書かれていた。何気なく、当たり前に使っていた教科書ですら税金による恩恵を受けた物だった。税を意識して身の回りを見てみると、学校も道路も病院も税金によって作られていることに気が付いた。少し前まで「税金なんかなくても困らない。」などと浅はかな事を思っていた自分は誤っていたことが分かり、恥ずかしく思えた。税金がなければ私達の生活は成り立たない。みんなが税金を払うことで誰かの命が救われ、子供達の学びを支え、公共設備が整う。だから納税者は皆、社会に生きる全ての人のヒーローだ。納税者がいなければ社会は成り立たない。私達は税金による恩恵を忘れてはならない。

私はこれからの人生で、誇りを持って税を払える人でありたい。「私も社会のヒーローの一員だ。」と。